



第133話 まんが:じっく

JA園芸課開催「園芸だよ! 全員集合」より②

おいしいと消費地から期待されるトマト! 高収益で収入の中心として取り組みます

希望する品目が決まっていればワンストップ新規就農相談窓口は普及センターとJAの各品目の担当職員を呼んでもらえます

JA職員 普及センター職員

相談窓口の担当者と共に品目について詳しく聞いてみましょう

まずトマトの4つの作型から

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
①ハウス長期栽培		○4月上旬・中旬		★6月上旬～				
②半促成栽培		○3月上旬・中旬		★5月中旬～				
③簡易露地栽培			○5月中旬		★7月上旬～			
④秋どり栽培				○6月下旬・7月上旬				

高値販売時期

出荷ピーク

高値販売時期に出荷ピークが合う

栽培はハウスを利用し多くの生産者が4月下旬に定植6月上旬から10月下旬ごろまで収穫する①ハウス長期栽培に組み込んでいます

②半促成栽培はそれよりも約1カ月早く栽培を開始する作型で主に花泉地域に生産者が多いですね

④秋どり栽培は全国的に出荷量が少なく単価の高い9～10月に出荷ピークを合わせるため現在部会で推奨中です!

あと初期投資が少ない③簡易露地栽培で栽培を開始しハウスでの規模拡大が可能です

さらに作型の組み合わせで作業の分散を図り無理なく栽培面積を拡大することもできるので相談してくださいね

例えば...
ハウス長期栽培 + 秋どり栽培

ちなみに収穫後は園芸センターで共同選果を行うので出荷作業の労力が軽減できます

定期的な指導会や座談会を開催し生産者同士の情報交換・栽培管理作業などを確認

出荷開始時には目ざろえ会で出荷規格や注意点を指導し栽培終了後は研修旅行も行っています

担い手班は若手が中心の組織で新技術や資材導入に積極的なに数回の定例会の他優良圃場や新技術導入圃場を視察交流会も開催したりと親睦を深めています

その若手の取り組みで課題の高値販売時期の出荷量確保のため秋どり栽培や遮熱資材ハウス内の外気導入など夏場の高温対策が進みました現在の④秋どり栽培推奨にはその成果が反映されています

令和7年は高卒の研修生2人が就農に向けて研修中新たな若手が参入予定よ

編集後記

▽春の農作業が本格化しています。5月号の特集では、労働力確保の取り組みについてお知らせしています。もぐもぐで新規就農者の確保の取り組みについて紹介していますが、農業経営をしていくには労働力の確保も課題です。特に園芸品目では、機械化できない手作業が多くあります。生産者も工夫しながら、労働力の確保について取り組んでいます。ご覧ください。(阿部)



▽「山河また一年経たり田を植うる」。今年も田植えの季節がやって来たという感慨を詠んだ相馬遷子の句です。田畑に響く農業機械のエンジン音、田んぼに張られた水面のまぶしさに触れると、遷子のこの心情を感じずにはいられません。▽現在、春の農作業安全月間が展開中です。農業機械の事故や、野焼きによる林野火災、住宅への延焼が起らないよう注意して作業に取り組みしましょう。(熊谷)

